

医療法人元生会 愛生病院

## 介護課通信

## 1 春のおとずれ

大変、お待たせしました。久々の通信発行です(\*'▽')

久々過ぎて、忘れられていたかもしれせん。

雪が多かった冬を乗り越えて、急速な雪解けで、すでに春の陽気に包まれるようになってしまいました。皆さん、季節の変わり目で体調を崩していませんか？

昨年、病院の隣の田んぼに70羽以上の白鳥の飛来があったので、今年も淡い期待をし、患者さんと楽しみにしていたのですが、二つ向こうの田んぼにいるのを見ただけで、今年は1羽も病院隣の田んぼに来ませんでした。来年は来てくれると嬉しいなと思います。



〒078-8340

旭川市東旭川町共栄 223 番 6

看護部病棟介護課

文責：看護部長 五十嵐しのぶ

Tel 0166-34-3838

Fax 0166-34-2867

ホームページ [www.aisei-hp.jp](http://www.aisei-hp.jp)

あたたかな心のふれあい  
HEART-WARMING

医療法人元生会  
愛生病院



## ミニ勉強会開催！

9月末、取引業者さんに依頼し、「おむみん」(体位変換枕)の使用方法について、ミニ勉強会を開きました。「体圧分散とポジショニング～圧力と面積の観点から～」という題でスクリーンを使用し、講義をして頂きました。

その後、実際にベッド上でスタッフの1人がモデルとなり、オムミン枕の使用法の説明と、同時に体圧分布測定器を使用しての実演がありました。圧のかかっている箇所と、かかっていない箇所が、リアルタイムに見る事ができ、どこを確認すれば圧がかかっているかがわかり、どうすれば、圧を軽減できるのかを、より理解する事ができました。

参加した介護スタッフ、数名の看護師も真剣に見入り、勉強になった様子でした。今後も、正しい使用方法を基に、患者さんに合わせ、応用しながら活用していきましょう。

汗をかきながら、一生懸命に説明をして下さった取引業者の方々、ありがとうございました。また、快くモデルを引き受けて下さったHさん、ありがとうございました。今後、またモデルが必要になった時、よろしくお願いします(#.^.#)

勉強会係り A・M



## 2 口腔内の乾燥予防とケア

当院では、暖房が入るようになった時から、加湿器の出番がやってきていました。病室内が乾燥するからです。患者さんにとって乾燥は大敵です。そうでなくても、口を閉じることが出来ず、口腔内が乾燥している患者さんが多いのです。口腔乾燥へのケアは保湿が基本です。普段から、加湿の必要な患者さんには、看護師がネブライザーで加湿をしています。部屋全体を加湿するなど、室内環境を整える事も有効だと言われています。

ある日の夜勤で、患者さんの一人が口を開けたまま閉じることが出来ずにいました。口腔内も乾燥していたので、水で湿らせたスポンジで汚れを取り、湿らせてみました。その後、訪室すると、なんと口が閉じていたのです！！たまたまなのかもしれませんが、その時は、口腔内が乾燥していて、口が閉じられなくなっていたのではないかと考えました。

今までも皆さんはそうしてきたと思いますが、病室に入り患者さんが口を開けていたり、いつもは言葉が聞き取れるのに、聞き取りづらかったりしたら、それは口腔内が乾燥しているのかもしれませんが、「ナースがするだろう」「他の誰かがするだろう」ではなく、意識して気づけるようになると、患者さんもご家族様も安心できる病院づくりの一つになるのではないかと考えます。

それと合わせて、朝晩はまだ肌寒いです。窓際の患者さんは廊下側の患者さんより、少し寒く感じるかもしれません。真夏の暑いときに外気温を少しでも防ぐ為に、遮光カーテンを閉め切っていた時がありました。今度は逆で、寒い外気温を少しでも感じないようにカーテンを開けるのは、せめて朝日が出てからにしたいものです。とはいえ、今は日の出が早くなりました。

# Nursing care communication.

ところで、食事をされ、コミュニケーションの取れる方の病室のカーテンはいつ開けていますか？寝たきりの患者さんも朝の栄養が始まるぐらいにカーテンを開け、朝の挨拶をし、少しでも寒さを和らげ、穏やかな気持ちで一日の始まりを迎えていただきたいと思いませんか？

余談ですが、一般家庭で、遮光カーテンを上手に使用すると、電気代の節電・節約にもなるそうです。



## 3 患者さんの転倒・転落予防のために

医療機関職員研修会で「転倒予防の知識と対策」の取り組みについて、参加した介護スタッフのKさんが、まとめてくれたレポートを発信したいと思います。通信を発行するにあたり、レポート提供をお願いしました。とてもよくまとめられているので、読んでみてください。少しでも患者さんが安心して過ごせるよう関わっていければと思います。

### 医療機関職員研修に参加して ～「転倒予防の知識と対策」への取り組みについて～

転倒予防は出来るのか？(〇〇病院における対策)

転倒=起立または、座った状態から姿勢を崩して床面に倒れること  
転落=高低差のある場所から、床面に落ちること。

〇〇病院では

#### ➤診察室

・つまづきを無くすため、回転椅子や逆に回転しない安定した椅子を導入。

#### ➤外来フロアー

・エレベーターの使用を推奨。杖歩行、見守り歩行、その他歩行に問題がありそうな場合、入院患者、外来患者を問わず、エスカレーターを使用せず、エレベーターの使用を推奨するため、見えやすいように、大きめの看板を立てている。

#### ➤入院フロアー

・転倒、転落についてアセスメントを行う。

・アセスメントがなく、転倒、転落事故が起きた場合、予見義務違反の可能性ががるため。

・アセスメント後は、評価も行う。

### 【まとめ】

皆さんは、どのようにお考えになりましたか？患者さんの転倒・転落事故をおこさないということは、とても重要です。ADLの低下や入院生活を送る中での筋力低下、身体的要因、環境的要因を把握し、各要因に当てはまることが多いほど、転倒、転落のリスクが高いということになります。

当院の患者さんは、夜間のトイレも多く、独歩や車椅子使用、または、ポータブルトイレの使用なども増えています。

ちょっとした事で、つまづき転倒することもあります。また、認知症が大きく関わってくると、思いもよらぬ行動を取り、転倒につながることもあります。普段、私達が患者さんに関わる中で、転倒・転落を予見するような「ヒヤッ」とした事例があれば、情報の共有を皆でするなどし、正しい知識と技術を身に付けていくことも大切だと思いました。





# Nursing care communication.

Thank You!

## 4 介護職として資質向上を目指しましょう！



今回、このように、外部研修の内容を通信の中で発信させていただきましたが、他にも外部研修に参加しているスタッフもいます。内容は問わず、これはいい！みんなにも知ってもらいたい！と思うものに出会ったときは、ぜひ、積極的に自ら発信してみてください。それぞれ、考え方や物の見方、受け止め方は人々です。しかし、患者さんへの関わり方の基本は同じだと思います。尊厳を持って、支援させていただいているという気持ちがあれば、自ずと日頃の言行動に現れるはず。目の前にいる患者さんが、「自分だったら」、「自分の家族・友人・大切な人だったら」と考えた時に、介護員や看護師さんにどのように対応してもらいたいと思いますか？自分だったら、そういう風に関わってもらいたいな。と思う関わり方を日頃からしていますか？して欲しくない関わり方、言ってほしくない言葉は、「しない」・「言わない」ように心掛けていきましょう。

以前読んだ小冊子の中に、こう言うことが書かれていました。

ある経営者M氏は、著名人をはじめ多くの成功者の話を聴講してきました。ある時、M氏は参加したセミナーの後に、同じく参加していた一人が「今日もいい話が聞くことができた。明日からまた頑張るか…」と満足げに言ったのを聞き、自分も今まで“セミナーの話聞くことだけで満足していた”ことに気づかされたというのです。多種多様なセミナーに参加する中で、自分が置かれた状況に合致する、強く心に響く話に出会うはず。聞いた話をただ「良かった」と終わらせるのではなく、実行に移して結果を積み重ねることが、成功につながる。

自分で聞いた話でも、興味がなかったりすると、記憶に残らず、忘れてしまいます。まして、人から聞いた話は、右から左に抜け、記憶に残るどころか、頭にも入ってこないものです。



私も勉強係として、スタッフの皆さんには、外部研修など自主的に、積極的に参加していただき、その中で、強く心に響く話に出会ってほしいと思います。

何もしていないでいると、そこで止まってしまうのですが、何かを学ぼうとして行動をすれば、きっと自己の成長にもつながると思います。どんどん院内研修、外部研修などに参加して知識を増やし、介護職としての資質向上を目指しましょう。



通信発行の係を務めた1年間は、あっという間でした。年度が変わりましたので、担当は終了となります。ありがとうございました。